エディトリアル

日光市民病院 管理者　杉田義博

今回の特集は「地域の現場における心肺蘇生」である．AHA（American Heart Association：アメリカ心臓協会）の心肺蘇生ガイドラインがコロナ禍の2020年に改定され，日本においてもJRC蘇生ガイドライン2020が出されたことに合わせて，どの医療現場においても必須である心肺蘇生法を地域の現場，特にへき地の診療所目線で見直そうと考えた．心肺蘇生法は最新の研究をもとにアップデートされており，われわれは最新のガイドラインに基づいた蘇生技術を身に付ける必要がある．一般市民に心肺蘇生法を普及することも医療者の義務とされ，時代の変化とともに高齢者や終末期を迎えた人に対する心肺蘇生の在り方といった倫理的な側面，2020年の新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の中で適切な心肺蘇生法は何か，といったことを含めて医療者は心肺蘇生について理解しておく必要がある．

今回は地域医療の経験を持つ，もしくは現在も地域医療の最前線に携わっている方々に，最新のガイドラインを現場に応用し，身に付け，システムをつくり，地域住民に教育するまでの貴重なノウハウを提供していただいた．

総論Ⅰでは心肺蘇生の総論として横須賀市立うわまち病院の本多英喜先生に最新のAHA心肺蘇生ガイドラインについて，その歴史的観点とガイドライン自体の読み方を含めて解説していただいた．総論Ⅱでは聖マリアンナ医科大学の小児救急専門医である島秀樹先生らに小児の心肺蘇生についてガイドラインの改訂ポイントと，初めて示された妊婦に対する一次救命処置に対するガイドラインを詳細に解説していただいた．救命救急の経験とへき地診療所勤務の両方の経験を持つ上山裕二先生には診療所，特にへき地の診療所において行われる心肺蘇生について，限られた体制と物品という制限の中でチームが有効に機能するための方策を，地域の現場における新型コロナウイルス感染症対策を念頭に置いた心肺蘇生手技を含めて解説していただいた．一方，超高齢化社会である日本において高齢者に対する心肺蘇生術を含む延命処置が持つ意味を，救命救急の長い経験とともに日本における安楽死事件についての貴重な経験を持つ小倉憲一医師に諸外国と比較した尊厳死の議論，延命治療の差し控えや中止を含めて分かりやすくまとめていただいた．

特集の後半は心肺蘇生においてますます重要性が増しているプレホスピタルケアについて３人に寄稿していただいた．まずイベント発生場所と医療機関を結ぶ最前線である救急隊と，救急医療の現場で重要な役割を果たしている救命救急士について，救命救急士である横須賀市立うわまち病院の桑原啓二氏に救急の制度と現状，救命救急士の今後の課題について解説していただいた．千葉市立海浜病院の本間洋輔先生にはバイスタンダーのCPR実施率を上げるための標準化教育についてオンライン講習会の活用も含めてまとめていただいた．地域住民への心肺蘇生教育を地域の現場で長く実践されている国保あかぎ診療所の菅野圭一先生には，My AEDやゲームといったユニークな教育の実践を紹介していただいた．

これらの論文を通して，読者各位が最新の心肺蘇生法を身に付けていただくとともに，地域において蘇生の連鎖がうまくいくような活動を続けていただくことを祈念する．